

循環器疾患

科目責任者 豊 田 茂
学年 6 学年

I. 前 文

既に、第3学年で循環器疾患に関する系統講義に続き、第4学年では症候、検査、治療などの面から循環器系を学び、さらに実際の臨床問題を題材とした演習が行われている。そして、第5学年では内科、外科、小児科、放射線科などの臨床実習において実際の症例や検査所見の動態をリアルワールドで体験している。これらの知識・体験を踏まえ、第6学年の集中講義においては、各教官が翌年の医師国家試験対策を踏まえて、今一度、重要事項をまとめる講義を行う。これにより、理解が不十分であった部分を補習し、既に修得されている事項についても、試験でミスを防ぐべく再確認と地固めを行う。

II. 学修の到達目標

講義や実習で学んだ循環器病学全体の知識を整理・確認し、成因、病態、検査、治療、予後などの連関を総合的に理解して、医師国家試験に出題される一般問題、臨床問題に正答できるレベルの学力を修得する。

III. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前に系統講義の資料、講義ノートを通覧し、十分に理解できていない項目について教科書や参考書で確認しておく。
(2時間)

循環器領域に関する過去の卒業試験問題や医師国家試験問題を演習する。特に正解できなかった問題について、知識が不足、不正確であった事項を再学習する。(2時間)

IV. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

(1:反転授業の要素を含む授業(知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)

2:ディスカッション、ディベート 3:グループワーク 4:実習、フィールドワーク 5:プレゼンテーション

6:その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	7	7	月	3	循環生理・心機能・心不全	内科学(心臓・血管) 伊 波 秀	1
2		7	月	4	心筋症・心筋炎・心膜疾患	内科学(心臓・血管) 伊 波 秀	1
3		7	月	5	大動脈疾患・心臓腫瘍	心臓・血管外科学 手 塚 雅 博	1
4		7	月	6	不整脈	埼玉医療センター 循環器内科 中 原 志 朗	1
5		7	月	7	弁膜症・肺高血圧	内科学(心臓・血管) 八 木 博	1
6		8	火	7	虚血性心疾患・末梢動脈疾患	内科学(心臓・血管) 阿 部 七 郎	1
7		9	水	4	高血圧	内科学(腎臓・高血圧) 頼 建 光	1
8		14	月	7	先天性心疾患・心臓外科	心臓・血管外科学 岡 徳 彦	1

V. 評価基準(成績評価の方法・基準)

講義への出席状況(2/3以上の出席を要する)。

客観的試験を行い、60点以上を合格とする。

VI. 医師国家試験出題基準（令和6年版）における区分

各論 V 心臓・脈管疾患 p.99～p.101

- 1
- 2
- 3
- 4 - A - ②
- 5 - B
- 6 - A～D, F
- 7 - A～C
- 8 - A

VII. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医 学 知 識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	◎
臨 床 能 力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能 動 的 学 修 能 力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料、情報通信技術〈ICT〉などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	◎
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社 会 的 視 野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人 間 性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

VIII. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験に疑問があれば解説の対応をします。